



平成 19 年 9 月 7 日

各 位

会 社 名 株式会社浅沼組
 代 表 者 代表取締役社長 浅沼健一
 コード番号 1852(東証第1部・大証第1部)
 問合せ先 本社経理部長 赤松 治
 TEL (06) 6768 - 5222

平成 20 年 3 月期 中間期および通期業績予想の修正
 ならびに特別利益・特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成19年5月15日の決算発表時に公表しました平成20年3月期中間期および通期の業績予想を下記のとおり修正いたします。また、特別利益・特別損失が発生しますので、その概要も併せてお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年3月期 中間連結業績予想数値の修正 (平成 19年4月 1日 ~ 平成 19年9月30日)
 (単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年 5月15日 発表)	77,700	1,180	1,430	1,300
今回修正予想(B)	69,700	2,880	3,080	3,700
増減額(B - A)	8,000	1,700	1,650	2,400
増減率(%)	10.3%	-	-	-
前期(平成19年 3月期中間期)実績	81,005	2,022	2,111	1,596

2. 平成 20 年3月期 中間個別業績予想数値の修正 (平成 19年4月 1日 ~ 平成 19年9月30日)
 (単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年 5月15日 発表)	77,000	1,200	1,450	1,300
今回修正予想(B)	69,000	2,900	3,100	3,700
増減額(B - A)	8,000	1,700	1,650	2,400
増減率(%)	10.4%	-	-	-
前期(平成19年 3月期中間期)実績	80,460	2,049	2,140	1,534

3. 平成 20 年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (平成 19年4月 1日 ~ 平成 20年3月 31日)
 (単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年 5月15日 発表)	199,450	1,520	920	410
今回修正予想(B)	199,450	520	20	130
増減額(B - A)	-	1,000	900	280
増減率(%)	-	65.8%	97.8%	68.3%
前期(平成19年 3月期)実績	230,878	690	367	5,264

4. 平成 20 年3月期 通期個別業績予想数値の修正 (平成 19年4月 1日 ~ 平成 20年3月 31日)
 (単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年 5月15日 発表)	198,000	1,500	900	400
今回修正予想(B)	198,000	500	0	120
増減額(B - A)	-	1,000	900	280
増減率(%)	-	66.7%	100.0%	70.0%
前期(平成19年 3月期)実績	229,859	653	325	5,507

5．修正の理由

20年3月期 中間期（連結・個別）

売上高の減少につきましては、完成工事の下期へのずれ込みによるものであります。

営業利益・経常利益の減少につきましては、売上高の減少に加え、建設資材価格の高止まりや労務費の高騰等による建設コスト上昇の影響によります。

当期純損失の増加につきましては、上記理由に加え、下記の特別損失計上に伴うものであります。

20年3月期 通期（連結・個別）

営業利益・経常利益の減少につきましては、建設資材価格の高止まりや労務費の高騰等による建設コスト上昇の影響によります。

当期純利益の減少につきましては、上記理由による営業利益・経常利益減少に加え、下記の特別利益・特別損失の計上および法人税等調整額の負担増の影響によるものであります。

6．特別利益の計上について

保有株式の一部について、資産効率向上とキャッシュフロー改善のため、下期において売却をすることにいたしました。売却利益は概ね18億円を見込んでおります。

7．特別損失の計上について

違約金・課徴金見込額

当社は、公正取引委員会から独占禁止法違反があったとして課徴金納付命令を受けたことにより当該納付が確定し、また、それに伴って発注者から契約に基づく違約金納付命令があった144百万円、および、課徴金納付命令の事前通知を受けたものについての課徴金・違約金の見込み額107百万円、計251百万円を特別損失に計上する予定であります。

工事未払金計上不足額

前期に計上した工事未払金と当期の確定支払額との差額見込額250百万円を前期損益修正損として、特別損失に計上する予定であります。

下請工事代金値増し額

昨年夏における極端な型枠大工や鉄筋工の不足の影響により工程が遅れ、期末に突貫で工程の挽回を図りました。これにより協力会社等に異常なコスト負担をかけたため補填金を支払うことが必要となり、当期に見積り計上額を大幅に超えて支払いした263百万円を特別損失に計上する予定であります。

完成工事補修費等

発注者やマンション購入者等からの施工精度に対する要求等により、建物完成後に手直し工事を行った結果、完成工事補償引当金で充当できないと見込まれる額が発生し、約200百万円を中間期に特別損失に計上する予定であります。

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上